

あびの文化

発行人 吉彌 藤井
我孫子市寿 2-21-23
04(7185)
1996

第三十四回記念文化講演会

- 日時 五月二十五日(日)午後2時〜4時半
- 会場 アビスタ2階小ホール
- 共催 我孫子市教育委員会
我孫子の文化を守る会

演題「利根川、手賀沼に挟まれた

我孫子の人々の営みを考える」

講師 相原正義氏 (流山博物館友の会会員)

(当日講演の内容)

●利根川東遷と手賀沼

利根川東遷は栗原良輔が『利根川治水史』(一九四二)で提起した。栗原は目的を舟運、埼玉の新田開発、伊達への防衛、本所・深川の都市化の四つをあげているが論も出ている。常陸川へ流入する赤堀川の川幅は当初十七間と狭く、洪水を流下することができなかつた戦後になって論争となり、小出博が舟運を除き三つを否定している。近年、幕府には東遷の考え・計画はなく、工事の結果として常陸川(利根川)に流路がつかつたという。

利根川の中下流では付帯工事が進んだ。

鬼怒川と小貝川は糸繰り状に流れて南下し藤蔵(とうぞう)で常陸川に合流する。両川は寛永年間に手賀沼上流の現在地に河口をそれぞれ付け替えた。我孫子市に直接かわる大工事は布佐・布川狭窄部の開削である。栄橋の幅は二七〇メートル、下流の川幅は五〇〇メートルほど。狭窄部工事の理由は不明だが河道を固定して下流への流量を一定に押さえ佐原付近の低地開発を進めることになったのかもしれない。狭窄部の上流は鬼怒川口まで自然遊水地となる。

手賀沼にかかわる工事は新利根川の開削である。掘削は寛文年間に完成し狭窄部を締切った。流路は

小貝川合流点の押切新田から直線状に霞ヶ浦まで達する。現在の利根川の水量を減らし(なくし)、手賀沼印旛沼、利根川下流の低地の新田開発を目的とした。だが、完成三年後に廃川になる。洪水を起こす、川は浅く流れが強いため舟運に使えない、など。狭窄部の締め切りは取り払われ、現在の流れに戻る。海野屋作兵衛らの手賀沼干拓は締め切りが取り払われた二年後に始まる。

時代は下り、幕末から明治にかけて、関宿の江戸川流頭に「棒だし」が設けられる。そのため利根川の水量が増え、手賀沼の洪水に加勢する。昭和二十一年に利根川・手賀川の接点に農林省排水機場ができるまでの長い間、手賀沼周囲の耕地は洪水被害の連続であった。

●洪水から生活の立ち直り

一回の洪水からの立ち直りには三年を要したといわれる。その間に沼縁の人々ほどのように生活をしなければならなかつたか。戦前は公や民間の災害援助は皆無であった。男は木挽きや東京へ出稼ぎした。成田線では行商が盛んになる。

また、手賀沼を前にして漁業に励むのであった。沼の漁業は前近代的な漁撈で収入も限られた。コイやフナ、クチボソは安くお金にならない、ウナギが唯一生活の支えとなった。だが、ドウ(うけ)やウナギ鎌では収量が限られるのであった。

(講師コメント)

利根川は江戸期以後、日本でもっとも人為の加わつた川である。当日講演のキーワードは、利根川東遷、手賀沼、漁業、行商を考えている。

(カットは『元漁業組合長深山正司』による「一つの手賀沼」相原正義著より)



図・行商の姿

平成二十六年年度総会

上記講演会に先立ち、同日(5月25日)午後12時から同じ会場で平成二十六年年度の総会を開催します。今年度の活動を決める重要な場です。多くの会員の方の参加を期待します。

平成二十六年年度事業計画 (案)

- 一、総会、文化講演会(五月二十五日)
- 二、史跡文学散歩(六、九、十一、三月予定、テーマ・我孫子にゆかりの文士の旧居を訪ねる)
- 三、放談くらぶ(原則偶数月第一日曜午後2時〜)
- 四、文学の広場掲示板への短歌6首掲示(年3回、1ヶ月間)
- 五、「美しい手賀沼を愛する市民連合会」への参加
- 六、小中学生を対象とした郷土文化の啓発活動
- 七、文化活動関係団体との連携協力
- 八、プロジェクト活動への全員参加を進める
- 九、ホームページの充実
- 十、杉山英先生の業績を多くの市民にPR

我孫子第一小学校の杉山英先生

紙芝居で上演

大井 正義

我孫子の文化を守る会では今ではあまり知られなくなつた我孫子第一小学校の初代の先生である杉山英先生のことを講演会等のみではなく、紙芝居でも伝えようと企画して、いました。

昨年夏に我孫子第一小学校に紙芝居の上演を提案、台本を提出しました。台本は大井が執筆し、絵は藤井会長の地元自治会の主婦村上静さんに描いていただきました。太田悟校長は絵をみた見た瞬間「これならいける」と言い、「紙芝居を通してすごい先生がいたことを知ってほしい」と全校生徒に見せることを決めたのです。

我孫子第一小学校は明治六年二月二十日に創立されたことから、今年二月三日(月)に創立記念式典が行われました。この式典で教育に情熱を燃やした杉

山英先生についての紙芝居が上演されたのです。式典については事前に朝日新聞に記載されたこともあり多数の参加者がありました。全校生徒五六八名、招いたPTA役員、学校評議員、英先生と縁があつたご家族、我孫子市以外からきた人など。当会からも役員をはじめ数名が参加しました。

上演は紙芝居の絵を体育館のスクリーンに拡大するかたちで行われました。当日は幸い穏やかな日でしたので寒さが感じられず、優しい英先生の上演に相応しい日でした。

紙芝居の内容は次のようなものです。

英先生は薄給の身でしたが、弁当を持ってこられない子どもには昼食を食べさせる等のことをしていました。このように子どもたちにすべてを捧げた英先生は大正六年、高齢のため退職しました。子どもがいなかった英夫妻の老後を心配した教え子たちが、養老基金運動を起すことと一九一人もの人が賛同し、今日の貨幣価値に換算すると一五〇〇万円もの基金が集まりました。我孫子町も一〇〇万円を贈つたので、この運動はまちぐるみの大きな運動であつたことがわかります。

紙芝居の口演は当会会員で、図書館等で紙芝居の口演や朗読等の活動を行っている当会会員の田中由紀さんが行いました。

子どもたちの感想集から大変好評であつたことを知り台本執筆者としても胸をなでおろしました。



あびこだより 31号

相馬八十八ヶ所物語

—歴史と文化をもう一度考えよう—

1. 一番、五番、八十八番札所長禪寺(取手)

取手は平将門がとりでを築いたので、地名が取手になったといわれる。将門の重臣の城はいくつかある。市内寺田の大山城、城主久寺豊後は城跡の原形を留めていない。長禪寺のさざえ堂(三世堂)には将門の守り本尊として十一面観音像がまつられている。将門の守り本尊は各地にいくつかある。相馬八十八ヶ所霊場は観光音禪師により江戸中期に開設された。四国八十八ヶ所霊場は江戸時代には大変な難行であつた。禪師は四国各札所の砂を持帰り、これを埋めて相馬霊場を開いたとされる。

2. 九番札所常円寺(小堀)

鎌倉幕府創設の功労者千葉常胤(相馬御厨の管理者)の守り本尊という不動明王像がここに安置されている。小田原落城によって千葉氏は城主の座を失い、重胤は不動明王を堂にまつれと遺言した。家臣の椎名右京亮は僧常円となり、明暦元年(1655)、小堀の人が常円に請い寺を小堀に建立、これが常円寺である。河岸問屋の一人寺田勘兵衛が常円寺の隣りの水神社に建てた庚申塔(立像)は、取手市最古と言われる。

3. 三十六番札所滝不動(岡発戸)

桓武天皇の曾孫にあたる高望王が「平」の姓を賜つて平高望を名乗り関東に下向した。寛平年中、岡発戸にて手賀沼への風光を愛し、み堂を滝前村へ建立した。のちに現在の中峠不動尊に移転した。この不動明王御腹籠り秘仏は空海が遣唐使に随い入唐の船中にて、一刀三札の作と称せられた不動尊の像であつたという。

4. 四十二番札所子の神(寿)

略縁起によると、行基(688~749)が諸国巡錫し、下総国分寺で薬師如来と大黒天の尊像と十二神将像を刻んで安置した。国分寺に度々火災があり、

各地に奉遷した。「子の神」と大黒天の尊像は宥啓阿闍梨自ら笈に背負い我孫子に來たとき、湖水、松杉、ひいらぎの霊木繁茂に感じ有縁の地と定め「康保元年(964)一字を建立したという。のち足腰の痛みに効験ありとの信仰が広がった。

源頼朝が我孫子で脚氣にかかり歩行困難となった。夢枕に白髪の翁が柵の葉を持って現れた。子の神権現の化身と告げ、その葉で頼朝の足を祓つたら、翌朝足が治った。

5. 六十八番札所布施弃天(布施)

布施弃天東海寺に弃天に祈願する武者を描いた絵馬がある。武者は将門として伝えられている。将門は良持と布施弃天の岩窟に住む紅龍との間に生まれた子供だとも言われる。将門がこの寺の弃天に必勝祈願をしたが、承平年間の兵乱の際、将門によって焼失され、源経基が再興したと伝える。

源経基は清和源氏の祖。清和天皇第六皇子貞純親王の長男、六孫王と呼ばれた。

取手市米の井の三仏堂で、将門の母は将門を産んだ際、大蛇になって脳天だけなめなかつたので、ここを射られて死んだという伝説がある。

—プロジェクト実施報告—

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

(第8回調査報告)

建国記念日の翌日、2月12日(水)、市中新木地区の巨木見廻りが実施された。

関東地方では8日(土)久しぶりの大雪に見舞われ積もつた雪はそのまま残雪となり歩行危険な場所もあるなか、12名(男性6・女性6)が新木駅に集合し、第8回偵察を実施した。

当日の調査行程は

新木駅北口 5:10(出発) ↓ 田村邸 ↓ 高田邸 ↓ 英住宅会社(石田邸) ↓ 成山邸 ↓ 気象台公園 ↓ 個人 M氏 葺不合神社 ↓ 食事処(昼食) ↓ 新木駅 13:30(解散)

個人住宅・田村邸(新木2020)

新木駅北口出口すぐ西側に石祠を根元におかれたスダジイの巨木がある。

御主人によると1500年程前からこの地に自宅を構え本人は5代目の当主であるという。

*スダジイ(樹高15.0m、幹周332cm、推定樹齢150年)

個人住宅・高田邸(新木2030)

新木駅北口から356号に出てすぐ右の個人宅庭中央にすくと空を衝くケヤキの巨木がある。

*参考樹木・ケヤキ(樹高20.7m、幹周294cm)

英住宅会社・石田邸(布佐945)

ケヨーデイツー前の英住宅社と石田邸の間に、根元を石囲したタブノキがある。

幹や枝を刈り込まれて樹木自体はじんまりしているが、巨木である。

*タブノキ(樹高10.7m、幹周301cm)

個人住宅・成山邸(布佐970)

平和台病院前の成山邸の広大な庭園内に巨大なスダジイがある。根元の状況から2本のスダジイと判定した。成山家は400年以上前からの旧家であるとのこと。

*スダジイ①(樹高16.3m、幹周364cm)

*スダジイ②(樹高16.3m、幹周332cm)

成山邸の門覆いのスダジイは参考樹木とする。

*参考樹木・門覆いスダジイ(樹高9.0m、幹周290cm)

気象台記念公園

気象送信所跡地を公園として整地したもので広大で数種類の樹木が植樹されているが巨木はない。

個人住宅・之氏邸(市宮北原団地西側)

個人邸宅入口にスダジイの巨木がある。家人了解のもと樹木調査を実施した。

*スダジイ(樹高12.6m、幹周388cm)

長福寺(新木1984)

日椿山長福寺、新義真言宗(龍泉寺末)無住。相馬霊場第81番札所。下総三十三観音札所(十一面千手観音)。

境内にはイヌマキの巨木や、珍しいムクゲンジなどの樹木が数本みられる。

*イヌマキ(樹高19.0m、幹周335cm)

個人住宅・之氏邸(新木野団地入口)

お歳をめした老婦人の了解で邸内の樹木調査を実施した。

*スダジイ(樹高22.1m、幹周305cm)

個人住宅・増田邸(新木1907)

御主人の案内で竹藪の中のスダジイの巨木2本を調査した。

増田邸を含めて新木駅の成田線沿いにスダジイが防風林として育てられていた名残のようである。

*スダジイ①(樹高22.6m、幹周415cm)

*スダジイ②(樹高22.5m、幹周310cm)

沖田の防風林

成田線北側に沿って新木駅ホームを中心に東西二百程に亘り、十数件の家屋を、手賀沼を抜けて吹く強風の南風から防ぐための防風林がある。常緑樹のスダジイなどが多く植えられていたようだが現在は竹林や雑木が茂っている。

現在の防風林の姿は、樹勢の旺盛なスダジイの巨木が数本残り、樹高を伸ばし覆い被さるようにして防風林の面影を残している。

葺不合神社

旧沖田村の村社で新木村の鎮守、「うがや葺不合尊」が祭神。もと厳島神社(沖田弁天)の地。

明治の神社合祀令により葺不合神社・白山神社・三峰神社を合祀したとき、森林伐採と共に由緒沿革を伝える文化物も破棄されたため創建年代不明。

「創立年代等不明なれど諸種の状況から奈良朝以前

に在るか如し」

葺不合とは「豊玉毘売命が鶴の羽で産屋の屋根を葺く」としたが葺き終わらないうちに御子を産んでしまった」との意。

本殿の彫刻は後藤藤太郎の作・四面の板壁に三韓征伐・八岐大蛇退治・天岩戸・神武東征が嵌められている。

御神木のイチヨウを含めて巨木は5本であった。

*イチヨウ①(樹高22.1m、幹周488cm) 御神木

*イチヨウ②(樹高18.7m、幹周470cm)

*ムクノキ(樹高30.2m、幹周348cm)

*ムクノキ(樹高19.9m、幹周325cm) 注1ケヤキと判定している資料有)

*スダジイ(樹高19.2m、幹周386cm)

今回の調査は個人の邸宅内にある良木・巨木の調査に時間をとられたが、調査を依頼したこの地区の住民の全ての方が親切で、自宅の樹木に愛着を持ち大切に保存してゆこうとの思いが伝わった。

「わ・物業cagにての反省会で締めくくった。

【行動時間:3時間、歩行数:約9,900歩、調査巨木本数:16本】

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

(第9回調査報告)

3年前に忌まわしき東日本大震災が発生(3月11日)した翌日の3月12日(水)、被災地を思うと未だ心が痛むが、今月の市中巨木見廻りが実施された。

この日は前日の厳しい寒さが一変し暖かな春の日差しで、15名(男性10・女性5)が湖北駅に集合し、第9回偵察を実施した。

当日の調査行程は

湖北駅北口(9:15(出発))↓旧法照院↓龍泉寺↓照妙院不動堂↓中里薬師堂↓中里村中野家↓湖北小学校北学童保育所↓相馬郡衛正倉跡↓将門神社↓鎌倉道↓(香取神社)↓地藏院↓日秀観音寺↓湖北地

区公民館↓個人M氏邸↓日本蕎麦屋(昼食・反省会)
↓湖北駅↓解散13:45
【行動時間:3時間30分、歩行数:約16,000歩、
調査樹木本数19本・巨木本数11本】

青年館「中峠上集会所」(中峠14333)

旧法照院(廃寺)の境内。真言宗玉霊山法照院は安永4年(1775)以前に大日如来を本尊として建てられたが、明治初年に廃寺となった。

現在集会所の建物に仏間が設置され不動明王などが祀られ信徒によって守られている。(相馬霊場第二十八番)

*イチョウ(樹高13.7m、幹周340cm)

龍泉寺(中峠14233)

真言宗南命山龍泉寺、真言宗豊山派、本尊・不動明王及び二童子。(相馬霊場第七十六番)

我孫子市域で最古の伝承を有する寺院であり、将門の天慶の乱のとき兵火によって伽藍が焼失したと伝えられている。現在の地に寺を移したのは天文年間(1532~1555)の事である。

*ソメイメイ①(樹高10.7m、幹周303cm)

*ソメイメイ②(樹高8.6m、幹周377cm)

*参考樹木:モクセイ(ウズギモクセイ)(樹高11.7m、3株立)

照明院「中峠下公民館」と不動尊堂(中峠1401)

真言宗滝前山照明(妙)院、もと龍泉寺末、現在は廃寺であるが不動尊は礼拝する信者が多く不動尊堂が境内参道奥に在る。本尊は不動明王。(相馬霊場第六十番札所)

公民館建物は大正初年の学校旧校舍建物の一部を移築したもの。不動尊堂の裏手は古墳があり、エノキ・ケヤキ・ムクノキ・アカガシが聳えている。

*イチョウ(樹高12.9m、幹周367cm)

*ムクロジ(樹高16.8m、幹周320cm)《ムクロジは秋に果実が黄褐色に熟す。果皮にはサポニン(水に溶かすと石鹼のように泡が出る)が含まれ、洗濯や洗髪などに使った。種子は羽子板の羽根の重りや数珠に使った》

中里薬師堂(中里23300)

真言宗豊山派、もと龍泉寺末、無住、創建年代不詳。北向薬師堂ともいう。堂内に江戸時代後期作と云われる薬師三尊と十二神将像が安置されている。敷地内には巨木はない。

中里通りと中里村中野家(中里47番地)

中里宿通りと呼ばれ農村集落の佇まいが残る。個人邸中野家の門隅にスタジイの巨木がある。(隣家の中野治房氏邸は元東大教授で植物博士、1973年没、煉瓦造塀の屋敷エノキの巨木は枯死して根本のみが残っている。)

*スタジイ(樹高13.8m、幹周365cm)《スタジイは暖地性照葉樹林を代表する樹木、シイやカシは昔から屋敷の周囲に防火・防風を目的として植えられた》

湖北小学校北学童保育所内

*スタジイ(樹高20.5m、幹周320cm)

相馬郡衙正倉跡

旧湖北高校敷地内。奈良平安時代に群の役所が徴収した米を貯蔵した倉庫(正倉)の跡。県指定史跡である。巨木はない。

将門神社(日秀1001)

祭神は平将門、旧日秀村の鎮守。平将門は天慶3年(940)に戦死、その霊が手賀沼を騎馬で渡り沼のほとりの岡に登って朝日を拝した地に、一字を建て霊を祀り鎮守としたのが当社の起りいと伝えられている。近くに将門が軍用に供したと伝えられる将門の井戸がある。

*スタジイ(樹高23.5m、幹周427cm)

*参考樹木:イヌマキ(樹高28.5m、幹周280cm)

*参考樹木:タブノキ(樹高16.1m、幹周3株立196cm+172cm+142cm)《タブノキはクスノキ科の常緑広葉

樹、沿海地に多く暖帯植物の代表的樹木。昔は集落にタブノキの巨木がありその下での祭りなどの「神体」として利用された》

伝承・かまくら道

国道356号(水戸街道・成田街道)は古代の官道の名残であるが、少し離れたところに生活用に使われた

と推測される「かまくら道」がある。これは各地に残る「鎌倉街道」とは関係ない「生活用古道」である。

この日は穏やかで暖かなお天気であったので、畑の中や森の中を通る古道を長閑に散策した。

*ヤドリギ《落葉樹に寄生する常緑樹でエノキやケヤキに寄生し幹に根をおろして養分や水分を奪い取って成長する。2月~4月に花を咲かせ秋に黄色の実をつける。冬も青々とした姿に古くから縁起木とされた》

(香取神社 新木2598)次回調査予定。

地藏院(新木3050)

真言宗豊山派、もと龍泉寺末、寿栄山地蔵院、無住。開山開基は不詳であるが墓碑から貞享3年(1686)以降と考えられる。本尊は地藏菩薩像。(相馬霊場第二十五番札所)

*イチョウ(樹高14.5m、321cm)

日秀観音寺(日秀90)

曹洞宗、もと正泉寺末、慈愍山(しみんざん)観音寺。創立は寛文2年(1662)、本尊は釈迦如来、霊場本尊は観音菩薩像。将門の守本尊の観世音蔵を安置している。国道に面した角には首を傾げ成田方面から顔を背向けている地藏が立っている。成田山は将門調伏の為に建てられた寺なので、成田山は見ない・案内しないと云うことだそう。(相馬霊場第二十九番札所)

*イヌマキ(樹高21.2m、幹周325cm)《イヌマキは中国原産の常緑高木で「イヌ(犬)」には本物より劣るという意味がある。材は高級建築材で特に桶に使用された》

個人邸M氏宅(中里77)

湖北地区公民館の西側・個人邸宅内にスタジイの巨木がある。

*スタジイ(樹高12.5m、幹周310cm)

今年度会費(二千円)納入のお願

本会はひとえに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-135476)『我孫子の文化を守る会 伊藤一男』宛お振込みください。

百人一首を楽しむ会(第46回)
2月28日(金)実施(場所アビスタフリースペース)

今月の歌(恋の歌その3)

忘らるる身をば思はず ちかひてし 人の命のをしくもあ
るかな (0000)

【現代語訳】

忘れ去られる私の身は何とも思わない。けれど、いつまでも愛すると神に誓ったあの人が、(神罰が下つて)命を落とすことになるのが惜しまれてならないのです。

【作者】

右近(うこん)。生没年不明。右近少将藤原季繩(すえなわ)の娘。10世紀前半の人で、醍醐天皇の中宮穩子(おんし)に仕えた女房。「右近」はその女房名。天徳4(960)年の内裏歌合などに出て活躍し、歌才を謳われた。恋も華やかで、「大和物語」には、藤原敦忠(あつただ)・師輔(もろすけ)・朝忠(あさただ)、源順(みなもと)のした(う)などとの恋愛が描かれている。

「大和物語」の第84段には、「おなじ女(右近)、男の忘れじと、よろづのことをかけて誓ひけれど、忘れにけるのちに、言ひやりける「男が「君のことは忘れな」とさまたまな誓いを立てたのに、女のことを忘れてしまった。その後言い送った」とあり、次にこの歌が掲載されている。歌を送った相手は、藤原敦忠と推測されるが、「返しは、え聞かず」と記されている。

天徳四年(960)三月、及び応和二年(962)五月の内裏歌合、また康保三年(966)の『内裏前裁合』に出詠するなど、朱雀・村上天皇の内裏歌壇で活躍した。後撰集に初出、勅撰入集は十首と少ないが、女房三十六歌仙の一人に選ばれるなど、名高い女房歌人である。百人一首では、前の朝康で古今集歌人の時代が終わわり、右近から後撰集・拾遺集時代に入る。またこの歌以後、ち番の曾禰好忠まで九首にわたり恋歌が続くゆえ、構成上の節目にある歌人と言って良いだろう。

百人秀歌では39番に位置し、次の敦忠と、恋人同士
の合せになる。また百人秀歌では右近から50番の実
方まで、十二首にわたり延々と恋歌が続くのである。

あさぢふの 小野の篠原 忍ぶれど あまりてなどか
人の恋しき (0009)

【現代語訳】

まばらに茅(ちがや)が生える、篠竹の茂る野原の「し
の」ではないけれども、人に隠して忍んでいても、想い
があふれてこぼれそうになる。どうしてあの人のこと
が恋しいのだろう。

【作者】

参議等(さんぎひと)し。880(951)源等(みなもとのひと)し。嵯峨(さが)天皇のひ孫で、中納言源希(みなもとのぞむ)の子。近江権少掾(おうみのごんのしようじょう)から左中弁、右大弁などを歴任し、947年に参議になった。

逢ふことの 絶えてしなくは なかなか
人も身をも 恨みざらまし (0044)

【現代語訳】

もし逢うことが絶対にならないのならば、かえってあの人
のつれなさも、我が身の辛い運命も恨むことはしない
のに。(そんなに滅多に逢えないなんて)

【作者】

中納言朝忠(ちゆうなごんあさただ)。藤原朝忠 ふ
じわらのあさただ 910(966)三条右大臣定方
(さだかた)の5男で、従三位中納言にまで昇進した。
笙(しょう)の名手だったという。「大和物語」などにあ
るが、恋愛遍歴が豊かで、百人一首に登場する右近も
恋人の一人だった。

今月の雑学(前出の短歌3首を元歌にしての狂歌)
忘らるる身をば思はず ちかひてし 人の命の 世話
ばかりする

恐るべき事は野夫医(やぶい)に身を任す人の命の惜し
くもあるかな
人の命惜しくはないかふぐと汁

徳利はよこにこけしに豆腐汁あまりてなどか酒のこひ
しき
約束の連れもはづれて弁当のあまりてなどか人の恋し
き

竹の子のあまりてなどか人の庭

すく人の絶えてしなくば真桑瓜皮をもみおもかぶら
ざらまし

「真桑瓜はメロンに似た果物。「かぶる」は「かぶりつ
く」。畑を鋤いて育ててくれる人がいなければ、こん
な風に皮ごとかぶりつくなんてこともできない、と当
り前の道理ですが、「すく」と「くわ(鋤)」、「皮」と「か
ぶる」が縁語になっているのが味噌。

月花の絶えてしなくばなかなか雲をも風もうらみ
ざらまし

河豚汁の堪忍ならぬ味はひは人も身をも恨みざら
まし

逢ふことのたえて久しき座敷牢

第114回史跡文学散歩のお知らせ

「柳田國男の住んだ布川を訪ねる」

今年度の史跡文学散歩のテーマは「我孫子ゆかりの
文人の旧居を訪ねる」としました。

第一回は柳田國男ゆかりの布川をご案内します。
布川は柳田が民俗学を志す原点となった地でもあり、
柳田にとって第一の故郷としても知られています。

日時 6月29日(日)JR布佐駅9時10分集合
(小雨決行)

コース 徳満寺一赤松宗旦旧居一来見寺一柳田國男
記念公苑 他

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)
参加費 会員 無料、非会員 500円
申し込み TEL&FAX (七七八四)二〇四七

越岡まで

文学掲示板

平成二十六年五月展示作品(文学の広場)

死せる沼を生き返らせらる先達の
努力映して水面きらめく

東京 長尾 謙一

くつろげば秋染み始む黒富士の
手賀の水面にほのぼのと浮く

愛知 中野 香代子

打上ぐる花火に高く「玉屋ア」と
賞つる友逝きてこの夏むなし

つくし野 中野 武

春の水満ちし利根川遠く立つ
鉄塔の長き影ゆらぐなし

千葉 西見 恒生

聞くとなくきく郭公の声のどか
茂り被へる手賀沼の辺に

柏 服部 良仙

水ぬるみ事なり沈む朽ちし葉の
そこはかとなく動く気配す

柏 広川 恵子

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和七年春

ぬかるみの水澄んである二月かな

峯の雪愕然としてなだれけり

落ちやらぬ檜の枯葉や下萌ゆる

遠ざかる八十八夜の霞かな

大河の出洲の砂原かげろへり

摘みは摘みてやがて捨てたる土筆かな

天地(あまつち)のこゝに關けて雛かな

春の道遠きをこそと選びけり

大河まろく流れて春の水緩し

笛吹かず人も踊らず臙なり

小草履をぬきそろへあり礪の春

傾けて花をよけ行く日傘かな

衣がへ母が嘯み切るしつけ糸

今後の行事予定

□ 平成二十六年年度総会

日時 5月25日(日) 12時〜14時

会場 アビスタ2階小ホール

(総会後同じ会場で文化講演会を開催します)

□ 「放談くわん」

日時 4月6日(日) 14時〜16時

会場 市民プラザ会議室1(我孫子駅北口徒歩8分)

！アビスタではありませんのでご注意ください。

講師 三谷和夫氏(当会前会長)

演題「相馬霊場八十八ヶ所物語」

相馬霊場八十八ヶ所とされた・長禅寺(取手)・常円寺

(小堀)・滝不動(岡発戸)・子の神(寿)・布施弁天(布施)

など各札所にかかわる平将門や武士の歴史と文化をもう一度考えましょう。

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込み 問合せ先 佐々木(七七八)〇六七五

□ 「放談くわん」

日時 6月1日(日) 14時〜16時

会場 我孫子市民プラザ

講師 大井正義氏

演題「杉山英先生の功績と紙芝居」

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

プロジェクト開催予定

「第10回我孫子の巨木・名木を訪ねる会」

日時 4月9日(水) 8時40分、我孫子駅改札口集合

成田線8:50発乗車(湖北駅8:54着)：湖北駅改札口

集合も可)

調査予定ルート

湖北駅北口↓バス(調査中)↓香取神社↓バス↓湖北

駅北口↓天照神社↓中峠上地区庚申塔群↓法岩

院↓古利根沼↓芝原城跡↓湖北駅北口↓解散

申込み・問い合わせ 佐々木(090-2594-0425まで)

当会の最近の動き(報告・予定)

散歩部会

3月30日(日)第113回史跡文学散歩

「湖北に残る将門伝説の地を巡る」

手賀沼部会

12月1日(日)「統一クリーンデー」我孫子エリア参

加者234名

1月14日(金)大堀川「こんぶくろ池・野田市」こ

うのとりの里「見学、参加者54名(当会6名)」

(予定)美手連定例総会と講演会

日時 6月7日(土) 13時〜

場所 水の館 3F

演題 「元漁協組合長深山正巳による「一つの手賀

沼から」

講演講師 相原正義氏

研修部会

2月2日(日)放談くわん「鮮魚街道余話」よせて「

44名が参加

(実施報告)

我孫子いろいろ八景(その2)発表会&コンサート満席

にて実施

2月22日(土)けやきプラザふれあいホールにて開催

第一部「我孫子のいろいろ八景」発表会

まちなみ八景 ハケ道八景 斜面林・田園八景

第二部八景コンサート

役員会予定

日時 5月4日(日) 12時〜15時

場所 アビスタ第3学習室

編集後記

東京にも桜の開花宣言が出ていよいよ花見シーズン

到来です。我孫子周辺地域は東京に比べ若干遅れるのが通例で

すが▲桜の開花とは、標本木のつぼみのうち、5〜6輪の花が

咲いた状態をいいます。一方、満開は、全体の花芽の80%

以上の花が咲いた状態をいいます。桜の花が開花してから満開

になるまでは、数日から1週間程度かかります▲日本人は兎に

角桜が好きで和歌や俳句で花といえ桜を指すことになってい

ます。向井去来の俳句「何事ぞ花見る人の長刀」は日本人が桜

を見るときの気持ちを端的に表しているといえそうです(美崎)